(八)

以上我國に於ける消費組合運動の中工業労働者に依るもの、みについて考究したのである。

消費組合の目的は、(一)小賣商(仲介商人)の利潤の廢止、(二)廣く資本家的利潤の絶滅、(三)生産、購買の協同經營による、未来社會の生産分配實現の過渡的教育となすもの等がある、而して此の中(一)は一般に謂ふる購買組合と称して、従来我國に於ても不完全ながら行はれ来つたものであるが、(二)就中(三)の職分については、従来労働者階級間に充分な利用機關たるの意識を持へて居なかつた。

日清戦争後、急激な資本主義の発達に従つて、之に伴つて起つた産業革命は、いやが上にも労働者階級の生活を現實化し、従来の如く可成りに安閑たる状態に於ては到底一日を過すことは不可能なりとする現象を齎したのである。

此処に於てか、労働者は團結の力を認め、共同的な施設を必然にせざるべからざる必要を感じ来つた。而して其の對策の結果は或は労働者階級をして或は労働組合運動に、無産政黨の政治運動に或は消費組合としての協同運動へ向はしめた。

然し、当初に於ては、此の消費組合運動は労働組合運動とは全然別個の進路を歩むものであつて、―又それが所謂ロッチデール式組合運動の原則たる消費組合運動の中立性ではあるが―、労働組合内に於ける消費組合運動は可能であり、従つて消費組合は労働組合の如く闘争的ではなかつた。然し事實、労働組合の目的は資本主義に対する闘争手段であり、消費組合運動も同様に資本主義組織に対する利潤廢止を目的とする闘争手段である。共に資本主義に対する闘争手段である点に於て是等は同一の目的に向ふものである。労働組合とは之を別個のものとして取扱ふことは出来ない。労働者は生産に於て又消費に於て二重の搾取を資本家階級から受けて居るのではないか。労働階級解放のためには、労働者の運動は是等の両方面に向つて進まなければならない。此処に労働組合内に於て消費組合運動をも併せ行ふ必要を感じたのである。然し消費組合運動は飽く迄経済運動である。政治行動とは別個のものであると云ふ意識を持つて居た。即ち消費組合運動は労働組合運動をなすに當つて之が経済的内容を安固ならしめる機關、換言すれば労働組合の兵站部であるとした。又現在それのみに止まつて居るものもある。然し、消費経済の直接生活問題は如何にすれば解決し得るか。此処に消費組合を通しての政治行動をなす必要が起る。総聯